

平成 30 年度 事業報告

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

社会福祉法人明和町社会福祉協議会

目 次

I. 平成30年度社会福祉事業報告

1. 法人運営事業

- 1-①. 理事会
- 1-②. 評議員会
- 1-③. 主な社協事業の状況
- 1-④. 職場内会議・研修

2. 社会福祉事業の普及啓発

- 2-①. 地域福祉活動計画の策定
- 2-②. 地区福祉委員会の活動助成（自治会長・民生児童委員）
- 2-③. ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯の交流（おでかけ交流会）
- 2-④. ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯等への歳末見舞い
- 2-⑤. 広報誌の発行
- 2-⑥. 社協ふれあい祭りの実施
- 2-⑦. 明和町社会福祉協議会会長表彰

3. 各種運動の推進・寄附金

- 3-①. 日本赤十字社募金運動
- 3-②. 社協会員増強月間
- 3-③. 赤い羽根共同募金運動
- 3-④. 歳末たすけあい運動
- 3-⑤. 寄附金（社協・ありんこ）

4. 福祉用具等の貸出に関する事業

- 4-①. 福祉機器等の貸出（ベッド・車いす）
- 4-②. バザー用品等の貸出
- 4-③. 祭壇の貸出事業（祭壇・天幕・鯨幕）
- 4-④. 地域コミュニティー備品貸出事業

5. 地域支え合い体制づくり事業

- 5-①. ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯等の実態調査事業
- 5-②. いきいきサロン支援事業
- 5-③. 介護支援ボランティア活動推進事業（高齢者有償ボランティア活動ポイント支援事業）
- 5-④. めいわサポーター【めいサポ】活動推進事業
- 5-⑤. 配食サービス事業
- 5-⑥. 軽度生活援助事業（ひとり暮らし高齢者に対する軽度な日常生活援助）

5-⑦. 災害ボランティアの育成

6. 介護者支援に関する事業

- 6-①. 家族介護者支援対策事業（低所得者紙おむつ券給付事業）
- 6-②. 寝たきり高齢者等紙おむつ券給付
- 6-③. 重度障がい者日常生活用品（紙おむつ券）給付
- 6-④. 生活保護受給者食事料金援助事業
- 6-⑤. 家族介護教室

7. くらしの相談・支援事業

- 7-①. 心配ごと相談事業
- 7-②. 福祉なんでも相談（社協の総合相談）
- 7-③. 成年後見制度に関する事業
- 7-④. 日常生活自立支援事業（権利擁護）
- 7-⑤. 生活困窮者自立支援事業
- 7-⑥. みえ福祉の「わ」創造事業
- 7-⑦. 生活福祉資金の貸付
- 7-⑧. 地域福祉金庫の貸付

8. 福祉教育に関する事業

- 8-①. u m o u プロジェクト
- 8-②. 福祉協力校の設置
- 8-③. 福祉体験教室
- 8-④. ボランティア・サマースクール

9. ボランティアセンター運営事業

10. 一般介護予防事業

- 10-①. えんがわ教室
- 10-②. 筋力脳力あっぷ教室

11. 介護予防・生活支援サービス事業

- 11-①. 通所型サービスC（おとなチャレンジ教室）

12. 地域生活支援事業（障害者総合支援法）

- 12-①. 手話奉仕員養成研修事業

Ⅱ. 平成30年度各事業利用実績

1. 居宅介護支援事業プラン作成実績
2. 高齢者通所介護事業利用実績
3. 障がい者福祉サービス事業（ありんこ）利用実績
4. 地域活動支援センター事業利用実績
5. 指定特定相談支援事業所サービス等利用実績

平成30年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会

事業報告

I. 平成30年度社会福祉事業報告

1. 法人運営事業

1-①. 理事会

| 開催日 | 議案・承認 |
|----------------|---|
| 平成30年 5月31日 | 第1回 ① 平成29年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会事業報告について ② 平成29年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会収支決算認定について ③ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について ④ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会臨時職員等就業規程の一部改正について ⑤ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会育児休業及び育児短時間勤務等に関する規程の一部改正について ⑥ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会評議員選任候補者の推薦及び、評議員選任・解任委員会の招集について ⑦ 平成30年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会第1回評議員会の開催について ⑧ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会訪問介護事業所の廃止について |
| 6月 7日 | 第2回 ① 社会福祉法人明和町社会福祉協議会評議員選任候補者推薦の取り下げについて |
| 平成31年 2月13日 | 第3回 ① 社会福祉法人明和町社会福祉協議会評議員選任候補者の推薦及び、評議員選任・解任委員会の招集について ② 平成30年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会第2回評議員会の開催について |
| 3月20日 | 第4回 ① 専決処分した事項の承認について 平成30年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会第1号収支補正予算 ② 社会福祉法人明和町社会福祉協議会 副会長の選任について ③ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会定款の一部改正について |

| | |
|--|--|
| | <p>④ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会経理規程の一部改正について</p> <p>⑤ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会職員就業規程の一部改正について</p> <p>⑥ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会臨時職員等就業規程の一部改正について</p> <p>⑦ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会登録ヘルパー就業規程の一部改正について</p> <p>⑧ 平成31年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会事業計画（案）について</p> <p>⑨ 平成31年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会収支予算（案）について</p> <p>⑩ 平成30年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会第3回評議員会の開催について</p> |
|--|--|

1-②. 評議員会

| 開催日 | 議案・承認 |
|----------------|--|
| 平成30年 6月11日 | <p>第1回</p> <p>① 平成29年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会事業報告について</p> <p>② 平成29年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会収支決算認定について</p> <p>③ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会理事の選任について</p> |
| 平成31年 2月13日 | <p>第2回</p> <p>① 社会福祉法人明和町社会福祉協議会理事の選任について</p> |
| 3月28日 | <p>第3回</p> <p>① 専決処分した事項の承認について</p> <p>平成30年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会第1号収支補正予算</p> <p>② 社会福祉法人明和町社会福祉協議会定款の一部改正について</p> <p>③ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会経理規程の一部改正について</p> <p>④ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会職員就業規程の一部改正について</p> <p>⑤ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会臨時職員等就業規程の一部改正について</p> <p>⑥ 社会福祉法人明和町社会福祉協議会登録ヘルパー就業規程の一部改正について</p> <p>⑦ 平成31年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会事業計画（案）について</p> <p>⑧ 平成31年度社会福祉法人明和町社会福祉協議会収支予算（案）について</p> |

1-③. 主な社協事業の状況

| 開催日 | 事 項 | 開催場所 |
|--------|--------------------------------|-----------|
| 平成30年 | | |
| 5月 8日 | ボランティアセンター連絡協議会定例会 | |
| 17日 | 監事監査 | |
| 25日 | 大淀地区福祉委員会 | 大淀会館 |
| 6月 6日 | 斎宮地区福祉委員会 | いつき会館 |
| 12日 | 上御糸地区福祉委員会 | ふれあい会館 |
| 14日 | 明星地区福祉委員会 | 明星会館 |
| 15日 | 下御糸地区福祉委員会 | みいと会館 |
| 7月 13日 | 家族介護教室①（認知症について） | |
| 16日 | 社会を明るくする運動「組立飛行機選手権大会」 | 多気スポーツ公園 |
| 8月 7日 | サマースクール開催 （ありんこ就労B型・えんがわ教室） | |
| 9日 | | |
| 17日 | | |
| 18日 | 家族介護教室②（自宅で出来るリハビリ） | |
| 25日 | 社協ふれあい祭り | |
| 9月 18日 | 大淀小学校福祉体験教室 | 大淀小学校 |
| 21日 | 斎宮小学校福祉体験教室（点字） | 斎宮小学校 |
| 26日 | 家族介護教室③（訪問看護） | |
| 27日 | 修正小学校福祉体験教室（点字） | 修正小学校 |
| 10月 8日 | 明和町敬老福祉大会 | 総合体育館 |
| 13日 | 明和町戦没者追悼式 | 総合体育館 |
| 21日 | 社協40周年記念行事 | |
| 22日 | 家族介護教室④（介護サービスの利用） | |
| 26日 | おでかけ交流会 | |
| 31日 | 三重県社会福祉大会 | 県総合文化センター |
| 11月 5日 | 下御糸小学校福祉体験教室 | 下御糸小学校 |
| 19日 | 家族介護教室⑤（介護サービス事業所見学ツアー①） | 町内事業所 |
| 20日 | 明星小学校福祉体験教室 | 明星小学校 |
| 22日 | 家族介護教室⑥（介護サービス事業所見学ツアー②） | 町内事業所 |
| 平成31年 | | |
| 3月 8日 | 災害ボランティア養成講座（福祉避難所） | 明和の里 |

1-④. 職場内会議・研修

| 会議・研修名・講師 | 参加職員 |
|---|---|
| ●職場内会議 ・運営会議（月1回） ・連携会議（月1回） ・行事委員会（全8回） ・資質向上委員会（全6回） | 会長・局長・次長・課長 次長・課長・係長 担当職員 担当職員 |
| ●職場内研修 ・社協職員としての倫理及び法令遵守の理解 (社協職員の職業倫理を考える) 講師：菰野町社会福祉協議会 常務理事 福田雅文 氏 | 全職員 |
| ・緊急時の対応 (意識レベル低下時の対応・送迎車内での対応・ てんかん発作時の対応) 講師：恩賜財団済生会松阪総合病院 救急・HCU 淺井伸輔 氏 | 全職員 |
| ・職場のメンタルヘルス対策 講師：三重産業保健総合支援センター メンタルヘルス対策推進員 河合加代子 氏 | 全職員 |
| ・嚥下について 講師：三重県済生会明和病院 言語聴覚士 吉田正男 氏 | 全職員 |
| ・社協内連携の事例検討 (事業所としての地域福祉) 講師：愛知教育大学 福祉講座 教授 川島ゆり子 氏 | 副主任以上 |
| ・地域福祉講演会 (お互いさんで支え合いの出来る地域づくり) ～ないものねだりの街からあるもの探しの町へ～ 講師：関西学院大学 名誉教授 牧里毎治 氏 | 全職員 |
| ・ファシリテーション研修 NPO法人 Mブリッジ 協働コーディネーター 石丸隆彦 氏 | 副主任以上 |

| | |
|---|-------------|
| ・アンガーマネジメント 講師：こころの医療センター 地域生活支援部 山元孝二 氏 | 全職員 |
| ・ヒヤリハット研修 講師：あおば会 老人デイサービスセンター青葉 センター長 萩原武士 氏 | 通所介護・生活介護職員 |
| ・福祉避難所運営研修 福祉防災コミュニティ協会 認定コーチ 湯井恵美子 氏 | 全職員 |
| ・人事評価者勉強会 講師：百五総合研究所 経営コンサルティング部長 平林 滋 氏 | 一次評価者 |
| ・腰痛予防研修 講師：ヨガスタジオプラーナ 藤原由佳里 氏 | 通所介護・生活介護職員 |

2. 社会福祉事業の普及啓発

2-①. 地域福祉活動計画の策定

| | |
|------|---|
| 事業目的 | 社会福祉協議会は、地域に暮らす人々がそれぞれに役割を持ち、お互いに支え合いながら、その人らしく活躍できる地域社会を育成し、公的なサービスの利用だけではなく、地域住民が得意分野を活かしながら助け合い暮らすことのできる仕組みを、住民が主役となる「地域福祉活動計画」として策定し、ともすると「他人事」になりがちな地域で起こる日常の出来事を、地域に暮らす人々が「我が事」として主体的に関わっていける仕組みを作っていくとともに、地域の支援と、公的なサービスへのつなぎを含めた「丸ごと」の相談体制の整備を進めていきます。 |
| 事業実績 | <ul style="list-style-type: none"> ●地域福祉計画策定委員会、地域福祉活動計画策定・推進委員会 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 6月26日 <ul style="list-style-type: none"> ・二つの計画の同時策定について ・ワークショップ 第2回 9月6日 <ul style="list-style-type: none"> ・二つの計画の一体策定について ・基本理念・基本方針・基本目標（案）について 第3回 10月23日 <ul style="list-style-type: none"> ・計画体系図（案）について ・小中学生から募集した絵画の選考 第4回 12月4日 <ul style="list-style-type: none"> ・素案について |

| | |
|-------|---|
| | 第5回 3月26日 ・最終案について |
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●地域福祉計画と地域福祉活動計画が、年度途中から一体策定となつたことで、住民の皆様に伝わりやすい構成の計画を策定することができました。 ●5回の策定委員会を通じて、委員の皆様から積極的なご意見をいただくことができ、より具体的な内容を盛り込むことができました。 ●策定委員会プロジェクトチーム会議を行つたことで、行政職員と社会福祉協議会職員が地域福祉の向上という共通目標について共に話し合い、連携していく土台づくりができました。 |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●住民・行政・社会福祉協議会それぞれの役割を明確にすることはできましたが、社会福祉協議会の具体的な実施計画は策定できていないため、今後策定していく必要があります。 ●本計画内で、この計画を推進していくために行政担当課と社会福祉協議会の連絡会議を定期的に実施することとなっており、今後具体的な組織体制を確立していくなければなりません。 |

2-②. 地区福祉委員会への活動助成（自治会長・民生児童委員）

| | | | | | | | |
|------|---|--------|--------|--------|---------|--------|---------|
| 事業目的 | 地域の生活環境のなかで、個人の力ではどうにも解決できない問題を、住民一人一人が地域ぐるみで実践するための組織づくりを行います。 | | | | | | |
| 事業実績 | 配分金（円） | | | | | | |
| | | 大淀 | 上御糸 | 下御糸 | 斎宮 | 明星 | 合計 |
| | 30年度 | 60,215 | 77,675 | 69,695 | 98,300 | 94,115 | 400,000 |
| | 29年度 | 66,230 | 76,730 | 70,475 | 104,615 | 81,950 | 400,000 |

2-③. ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯の交流（おでかけ交流会）

| | | | | | | | |
|-------|---|-----|-----|----|----|----|-----|
| 事業目的 | 日帰り旅行を行うことにより、日々の暮らしの様子や生活課題はないかなどの確認や、旅行を楽しみに生きがいを持って生活していただくことを目的としています。 | | | | | | |
| 事業実績 | 参加人数（人） | | | | | | |
| | 大淀 | 上御糸 | 下御糸 | 斎宮 | 明星 | 合計 | |
| | 30年度 | 21 | 8 | 4 | 38 | 39 | 110 |
| 事業評価 | 29年度 | 19 | 10 | 4 | 40 | 48 | 121 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●日頃遠出や買物の機会が少ない参加者に喜ばれ、地域の方との交流も楽しんでいただいています。旅行先の鳥羽方面は近距離で移動時間も短いため、高齢の方にも身体面の負担が少なく参加していただけました。 | | | | | | |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●今後も経費は高騰していくことが予想され、また、参加対象者も年々増えることもあり、参加費の増額も検討する必要があります。 ●旅行先の選定や内容についてもアンケートを取る等参加者に喜ばれる事業にしていかなければなりません。 | | | | | | |

2-④. ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯等への歳末見舞い

| | | | | | |
|-------|---|-------|-----------|-------|-------|
| 事業目的 | ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯などの方々に個別訪問を行い、見舞品を配布しつつ安否確認を行います。 | | | | |
| 事業実績 | 配布数（個） | | | | |
| | 対象者 | 要援助世帯 | ひとり暮らし高齢者 | 高齢者世帯 | 合計 |
| | 30年度 | 48 | 548 | 454 | 1,050 |
| 事業評価 | 29年度 | 34 | 562 | 443 | 1,039 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●年々ひとり暮らし高齢者、高齢者ともに増加傾向です。要援助者世帯（ねたきり高齢者、認知症高齢者、ひきこもり等その他援助が必要と思われる世帯）においても増加傾向です。 | | | | |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●今後も対象となる世帯は引き続き増加傾向をたどると予想されます。対象者の中には事業目的に理解が得られず、調査に協力が得られないケースがあり、把握できない対象者もあります。また、要援助者世帯についてもプライバシーの問題が生じ、把握が難しいケースがあります。 | | | | |

2-⑤. 広報誌の発行

| | |
|------|---|
| 事業目的 | 住民の皆さんに、社協の様々な活動内容をご理解いただくとともに、地域福祉活動に積極的に参加するための情報提供を行います。 |
| 事業実績 | <ul style="list-style-type: none"> ●「社協だより」 年4回発行・社協の活動紹介 収支予算、基本方針、新規事業、福祉なんでも相談、募金活動報告、寄付金・寄付物品報告、ありんこアルミ缶回収協力者表彰、社協ふれあい祭りボランティア募集、社協ふれあい祭り開催案内、地域福祉活動計画策定開始報告、シニアチャレンジ教室、umo uプロジェクト、家族介護教室、めいわサポーター募集案内、福祉出前講座、ふれあいレクリエーション、功労者表彰、防災ボランティア養成講座、ライブスペース勢の！in 明和 vol.4、ボランティアグループ紹介、サロン活動紹介 ●「広報めいわ」に「社協だより」コーナーを掲載 |

2-⑥. 社協ふれあい祭りの実施

| | |
|--------------|---|
| 事業目的 | 日頃、ボランティアなどに従事している各福祉団体や、ボランティア団体、社会福祉施設に参画いただき協同の輪をひろげるとともに、福祉に関わる機会の少ない地域の皆さんに、楽しみながら福祉を身近に感じていただける機会をつくります。地域の皆さんと交流し、社協が実施している事業や、ボランティア活動、募金運動など、地域の皆さんにひろく福祉について関心を持っていただく事を目的としています。 |
| 30年度 事業実績 | <ul style="list-style-type: none"> ・会長表彰並びに感謝状授与式 ・ステージ発表 【明和中学校（プラスバンド部）・ゆたか保育園盆踊り・業平夢太鼓（演奏、太鼓体験） 北野友楽クラブ盆踊り・ありんこ（ダンス）】 ・福祉スタンプラリー 【手話体験・点字体験・パラスポーツ体験（車椅子バスケ、フライングディスク）】 ・ふるまい（ながしそうめん） ・縁日コーナー 【ヨーヨー釣り、輪投げ、ストラックアウト、ゲーゴル、射的、もぐらたたき】 ・あんまコーナー ・ちびっこ子ども広場 【遊び場、マジックコーナー、イラストコーナー】 ・夜店 【フランクフルト、やきそば、ポップコーン、かき氷、ドリンク】 ・café 茶々販売 【からあげ、フライドポテト、あげたこ、カレー】 ・販売 【あざふるさと、第2南勢就労支援センター、ベーグルファンズ、ぎゅーとら】 |

| | |
|--------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・明和町写真コーナー ・UMOU プロジェクト啓発 ・バルーンアート ・菓子まき |
| 29年度 事業実績 | <ul style="list-style-type: none"> ・会長表彰状並びに感謝状授与式 ・ボランティアステージ 【明和中学校（プラスバンド部）・FREEZEBAND（エレキギター）・明和太鼓・コータス斎王・輝風（よさこい）・琴の葉（大正琴）・ありんこ（ダンス）】 ・とろみ飲料体験（試飲） ・ノンアルコールビアガーデン ・縁日コーナー、盆踊り ・地域福祉アンケート ・バルーンアート ・障がい者スポーツ体験 ・母子寡婦福祉会・あざふるさと・ぎゅーとら・ベーグルファンズ販売、あんまコーナー、スタンプラリー、 ・アルミ缶・エコキャップ・古切手、古新聞、牛乳パック、羽毛製品回収 ・ありんこ・どんど花・第2南勢による作品販売 ・ふるまい（流しそうめん・ポップコーン・わたがし・フランクフルト・せんざい・フライドポテト） ・cafe茶々営業、県共同募金会啓発 ・菓子まき、花火 |
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●今年度は昨年同様、開催時期を夏にし、夕方から夜にかけて開催しました。又、昨年度は屋内での開催でしたが、夏祭りの雰囲気を地域の皆様と楽しむことに重点を置き、地域の皆様のご協力を得て屋外で開催をしました。 ●昨年好評だった流しそうめん、縁日コーナーは準備数を大きく上回る来客があり、特に小さいお子様連れのご家族にたくさんご参加いただきました。 ●新たに福祉スタンプラリーとちびっこ子ども広場を企画しました。予想を上回る来場者があり、多くのお子様、子育て世代の住民さんに啓発ができました。 ●ふるまいの形態をイベント等への参加賞という形に変更しましたが、多くの来場者から概ね好評なお言葉をいただきました。 ●概算で 1200 名を超えるご来場を頂き、多くの皆様に啓発ができました。 ●各企画に対して、下記の通り多くの福祉団体、団体個人ボランティア等の皆様にご参画いただき、協同の輪がひろがりました。 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉スタンプラリー（手話サークル、明和町点字サークル） ・縁日コーナー（明和中ボランティア部、皇学館大学ボランティア） ・ちびっこ子ども広場、夜店（地域ボランティア、皇学館大学ボランティア） ・浴衣着付け（北野友楽クラブ有志、地域ボランティア） |

| | |
|-------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り、縁日コーナー看板作成（明和中ボランティア部） ・会場設営、ステージ発表アシスタント（北野友楽クラブ有志） ・あんまコーナー（三重県盲学校） ・明和町写真展示コーナー（写真同好会） ・景品、参加賞等（株式会社イセツ、セカンドハーベスト） <p>●秋には社協40周年記念行事を開催し、招待客を中心に講演と映画上映を行い啓発ができました。</p> |
| 今後の課題 | <p>●社協ふれあい祭りを通してさらに地域の皆様との交流を深め、協同の輪をひろげる事で、「福祉のまちづくり」を共に推進する体制構築に繋がる事が期待されます。</p> <p>●社協職員が企画開催をするのではなく、将来的には地域住民の皆さんと協同で企画開催できるように実行委員会を組織するなど、地域と一体的なお祭りになる事が期待されます。</p> <p>●社協の事業を始め、さまざまな福祉活動や福祉資源の情報が、適切に来場者に届くように内容を検討していく必要があります。</p> <p>●来場者が福祉に関心をもってもらえる内容を検討するとともに、あらゆる世代の方々の福祉ニーズをキャッチできる形態を検討していく必要があります。</p> <p>●予測される来場者数に対し、各ブースの適当なスペースの確保や配置に加え、飲食や景品等に関して、適切な数を検討しなければなりません。</p> |

2-⑦. 明和町社会福祉協議会会长表彰

| | | | |
|------|--|---|--|
| 事業目的 | 地域福祉の推進に多年活動を続け、その功績があった方、その他広く福祉の増進に功労のあった方に対し、会長がこれを表彰し、また感謝の意を表し、その功績を讃えるとともにあわせて地域福祉活動の発展に寄与することを目的としています。 | | |
| | 30年度 | 会長表彰・感謝 地域福祉功労者 1名 (明和町社会福祉協議会40周年記念行事) | |
| 事業実績 | 29年度 | 会長表彰・感謝 地域福祉功労者 1名 社会福祉施設・団体功労者 1名 ボランティア活動功労者 1団体 地域福祉活動協力功労者 1名 地域福祉活動寄付功労者 1社 | |

3. 各種運動の推進・寄附金

| | | |
|-------------|----------|-----|
| 明和町 自治会数 | 平成 30 年度 | 9 4 |
| | 平成 29 年度 | 9 4 |

3-①. 日本赤十字社募金運動（1世帯 500円程度）

| 区分 | | 一般社資 (自治会数) | 合計 |
|------------|------|-------------------|-----------|
| 募金額 (円) | 30年度 | 1,401,764 (74) | 1,401,764 |
| | 29年度 | 1,319,120 (81) | 1,319,120 |

3-②. 社協会員増強月間（一般 300円 特別 1,000円程度）

| 区分 | | 一般賛助会員 (自治会数) | 特別賛助会員 (件数) | 合計 |
|------------|------|------------------|----------------|---------|
| 募金額 (円) | 30年度 | 959,454 (71) | 0 (0) | 959,454 |
| | 29年度 | 865,803 (72) | 0 (0) | 865,803 |

3-③. 赤い羽根共同募金運動（1世帯 500円 法人 3,000円程度）

| 区分 | | 一般募金 (自治会数) | 法人募金 (法人数) | 職域募金 (役場・消防署 ・百五銀行・河 田フェザー・三 重電子・社協) | イベント募金 (募金箱等)・ 街頭募金(イオ ン・駅前)・ 募金付自販機 | 羽毛 回収 | 利 息 | 合計 |
|------------|----------|-------------------|------------------|--|--|----------|--------|-----------|
| 募金額 (円) | 30 年度 | 1,194,490 (70) | 316,000 (125) | 42,812 | 84,083 | 40,093 | 3 | 1,677,481 |
| | 29 年度 | 1,256,850 (72) | 323,000 (123) | 53,506 | 91,858 | 63,290 | 3 | 1,788,507 |

3-④. 歳末たすけあい運動（1世帯 200円 法人 1,000円程度）

| 区分 | | 一般募金 (自治会数) | 法人募金 (法人数) | その他 (個人・職域) | 利 息 | 合計 |
|------------|----------|-----------------|------------------|-------------------|-----|---------|
| 募金額 (円) | 30 年度 | 685,616 (73) | 157,710 (123) | 30,800 (個人・職域) | 0 | 874,126 |
| | 29 年度 | 712,371 (71) | 147,400 (123) | 42,713 (個人) | 0 | 902,484 |

3-⑤. 寄附金（社協・ありんこ）

| 区分 | | 件数(件) | 金額(円)・物品名 |
|------|------|-------|---|
| 寄附金 | 30年度 | 14 | 422,721 |
| | 29年度 | 15 | 316,443 |
| 寄附物品 | 30年度 | 13 | 新米60kg、玄米30kg、車いす1台、 サーフィンボード1台、温湿度計1台、 一番茶2.2kg、お菓子詰め合せ200袋、 クリスマスプレゼントお菓子58セット、 ゴミ袋65袋、ボックスティッシュ37箱、 入浴剤5缶、紙パンツ、花の寄せ植え |
| | 29年度 | 20 | 新米60kg、紙パンツ・紙パット等、 マッサージクッション1台、手袋18双、 一番茶2.7kg、足裏健康器具1台、 クリスマスプレゼントお菓子120セット、 お菓子詰め合せ200袋、花の寄せ植え |

4. 福祉用具等の貸出に関する事業

4-①. 福祉機器等の貸出（ベッド・車いす）

| 事業目的 | 日常生活に支障をきたしている方に対して、福祉用具を貸出することにより、在宅介護の支援を行います。 | | | |
|------|--|---------------------|----------|----|
| | 種別 | 保有数(台) (貸付数:3月末) | 延べ申請数(台) | |
| 事業実績 | 車椅子 | 17 (4) | 30年度 | 40 |
| | | | 29年度 | 50 |
| | ベッド | 8 (なし) | 30年度 | 1 |
| | | | 29年度 | 1 |

4-②. バザー用具等の貸出

| | | | | |
|------|---|------------------------------------|-----------------------|------------------------|
| 事業目的 | 野外活動や町内各種イベント及び祭りを開催する団体・グループ・自治会などに貸出をし、その収益を福祉のまちづくり資金や各種募金活動の資金にすることを目的としています。 | | | |
| 事業実績 | 貸出件数（件） | | | |
| | 30年度 | 焼き鳥器・・・2 焼きそば機・・・6 ポップコーン機・9 | テント・・・・7 かき氷機・・・13 | わたがし機・・・7 たこ焼き機・・・1 |

| | | | |
|------|------------------------------------|-----------------------|------------------------|
| 29年度 | 焼き鳥器・・・3 焼きそば機・・・4 ポップコーン機・7 | テント・・・・8 かき氷機・・・12 | わたがし機・・・7 たこ焼き機・・・1 |
|------|------------------------------------|-----------------------|------------------------|

4-③. 祭壇の貸出事業（祭壇・天幕・鯨幕）

| | | | |
|------|--------------------------------------|------|----------|
| 事業目的 | 町民の便宜を図り、併せて生活改善の啓発に役立てることを目的としています。 | | |
| 事業実績 | 保有数（台） (貸付数：3月末) | | 延べ申請数（台） |
| | 2 (なし) | 30年度 | 0 |

| | |
|------|---|
| 29年度 | 0 |
|------|---|

4-④. 地域コミュニティー備品貸出事業

| | | | |
|------|--|--------------|--|
| 事業目的 | 住民で組織する団体等が行う地域社会活動を支援し、地域コミュニティーの活性化と自主的な社会貢献活動を促進するため、地域コミュニティー備品を貸出します。 | | |
| 事業実績 | 貸出件数（件） | | |
| | 30年度 | 公式わなげセット・・・5 | |

| | | |
|------|--------------|--------------|
| 29年度 | 公式わなげセット・・・4 | 安全ソフトダーツ・・・1 |
|------|--------------|--------------|

| | | | |
|------|--|--|--|
| 事業評価 | ●サロン活動は、屋内で開催されることが多く、公式わなげセットのような狭い場所でも競技が可能な物品の貸し出しありますが、その他については貸出につながっていません。 | | |
|------|--|--|--|

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●貸出先が固定化されつつあり、町内全体に周知が行き届いていないと状況がみられるため、自治会のお祭りなど幅広く活用していただけるよう広報していきます。 ●障がい者も共に楽しめる「ボッチャ」をイベント時に使用していただくなど、周知する対象を増やしていきます。 ●いきいきサロン支援事業のニーズを反映できるよう、貸出物品メニューの再検討を行い、地域福祉活動の活性化につなげる必要があります。 | | |
|-------|--|--|--|

5. 地域支え合い体制づくり事業

5-①. ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯等の実態調査事業

| | | | | | |
|------|---|-------|---------------|-------|-------|
| 事業目的 | 民生委員・児童委員と協働し、訪問、声かけ、安否確認などの活動を通じて、担当区域内の住民の実態やあらゆる福祉ニーズを日常的に把握します。また地域の行事や会合などにも参加し、情報収集に努めます。 | | | | |
| 事業実績 | | 要援助世帯 | ひとり暮らし 高齢者 | 高齢者世帯 | 合計 |
| | 30年度 | 49 | 553 | 455 | 1,057 |
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none">●年々ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯共に増加傾向です。昨年度より対象の幅を広げ調査した要援助世帯（ねたきり高齢者・認知症高齢者・ひきこもりその他援助が必要と思われる世帯）においても増加傾向です。●調査対象全体の人数も増加傾向です。 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none">●対象となる世帯は引き続き増加傾向をたどると予想されます。対象者の中には事業目的に理解が得られず、調査に協力が得られないケースがあり、把握できない対象者もあります。要援助者世帯についても個人情報保護の課題以外にも、プライバシーに配慮した調査を実施する必要があり、把握が難しいケースが出てくると予想されます。 | | | | |

5-②. いきいきサロン支援事業

| | | | |
|----------------|---|--|--|
| 事業目的 | 高齢者の外出を促し、集える拠点として公民館を整備し、ボランティアを中心としたサロン活動を行うことで介護予防につなげるとともに、世代を超えた地域住民同士の支え合いの体制を構築することを目的とした事業の活動支援を行います。 | | |
| | 開催回数 | 活動時間 | 活動内容 |
| 30年度 (27会場) | 月10回以上：1 週2回： 1 週1回： 2 月2回： 7 月1回： 15 年4回： 1 | 2時間：11 3時間：9 4時間：1 5時間：2 6時間：4 | カラオケ、ゴーゴー体操、 ラジオ体操、グランドゴルフ、 クロリティー、輪投げ、 ハイキング、脳トレ、講話、 食事会、茶話会、お花見、 忘年会、子供会への協力、 自治会行事への協力、踊り、 囲碁、将棋、麻雀、 お菓子づくり、地元の歴史を学ぶ、 町内バスによる町内観光 健康ひろば、ゴキブリ団子作り 大正琴、マジックの鑑賞 |
| 事業実績 | 週2回： 1 週1回： 3 月6回： 1 月2回： 8 月1回： 13 不定期： 1 休止中： 1 | 2時間：10 3時間：10 4時間： 1 5時間： 1 6時間： 5 不定期： 2 | カラオケ、ゴーゴー体操、 ラジオ体操、グランドゴルフ、 クロリティー、輪投げ、 ハイキング、脳トレ、講話、 食事会、茶話会、お花見、 忘年会、子供会への協力、 自治会行事への協力、踊り、 囲碁、将棋、麻雀、 お菓子づくり、地元の歴史を学ぶ、 町内バスによる町内観光 健康ひろば、ゴキブリ団子作り 大正琴、マジックの鑑賞 明和町社協による住民ふくし 座談会 |

| | |
|-------|---|
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●住民ふくし座談会をサロン2カ所で開催しました。 ●従来からある老人会活動から広がったサロンだけでなく、自主的に集い、サロン活動を継続的に実施している団体も11か所訪問させてもらったほか、3か所の地域活動について情報収集を行いました。また、今年度新たに1か所ボランティア団体によるサロン活動が開始されたため、広報活動などの支援をしております。 ●地域の空き倉庫を活用して、雨でも体を動かす活動をしているサロンがあります。 ●後継者不足や役員の負担、代表者の体調不良などで、開催できなくなったサロンがあります。 ●報告書類の提出義務は平成30年度からなくなりましたが、サロン訪問しインタービューすることで、各サロンの運営状況を把握できました。そのなかでそれぞれに有効であると考えられる支援を分析することができました。 |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●カラオケ機器のメンテナンス費用、新曲の購入費など活動費用の捻出に困られているサロンがあり、今後の支援を検討する必要があります。 ●代表者や役員のみに負担が偏りがちなサロンが多いため、参加者全員で役割分担をしたり、地域のボランティアの力を借りたりして、安定したサロン運営ができるように支援していく必要性を感じています。 ●新しいプログラムを導入するためにサロン視察や、参加者のニーズを調査して、一つのサロンでは開催出来ない事業を、社協とともに開催しサロン活動の視野を広げていただける支援に努めます。 ●各サロン活動のなかでも、課題や悩み、地域に向けてアピールしたい事などがあることが把握されましたので、来年度以降、それぞれのサロン同士の交流の場として課題や悩みの共有、有効な情報収集の場づくりを検討する必要があります。 ●引き続き、趣味や関心を持った方々が自治会等の枠を超えて集える「つどいの場」として開催されるサロンの訪問を継続し、情報提供やコーディネート等、必要に応じた支援に努めます。 |

**5-③. 介護支援ボランティア活動推進事業
(高齢者有償ボランティア活動ポイント支援事業)**

| | | | |
|------|---|---------------|--------------|
| 事業目的 | 元気な高齢者が特別養護老人ホーム等でボランティア活動を行うことにより、本人の健康増進や介護予防につなげること、社会参加、地域貢献を通じた生きがいづくりを促進することを目的としています。 | | |
| 事業実績 | 登録数 | ポイント 転換交付数 | 活動事業数 |
| | 30年度 102名 | 1,050P | 16事業 |
| | | | 29年度 73名 |
| | | | 530P 16事業 |
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●社協で開催している介護予防事業の参加者が、社協の他事業のサポーターとしての登録や、老人会活動の中で生まれたボランティア活動者の登録があり、確実に登録者数は増加しています。 ●登録者の中には手帳を持つ事を負担に感じる方もあり、登録し活動はされていますが、ポイントを貯めない方もいらっしゃいます。 ●今年度は、事業所への広報活動が進まなかったので、活動事業の申請数が増やすことは出来ませんでした。 ●開催頻度が多い事業で活動しているボランティアは、ポイントがすぐ貯まる傾向がありますが、一部のボランティアは、来年度以降年間のポイント転換交付時期に期限切れになり、転換出来ないポイントが出てくることが予想されます。 ●登録する事で、ボランティア活動保険に加入するため、活動者も受け入れ側の施設も安心してボランティア活動が出来ています。 | | |
| 事業課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●昨年度は、事業・事業所で既存に活動しているボランティアの登録が多くありましたが、何もボランティアをしていない方などに登録を勧めることで、新規登録者を増加していくことを検討しています。 ●今年度はボランティア受入側の事業所数を増やしていく必要があります。 | | |

5-④. めいわサポーター【めいサポ】活動推進事業

| | | | |
|---|--|---------------|--------|
| 事業目的 | 地域のあらゆる住民がそれぞれ役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティーを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築することを目的としています。 | | |
| 事業実績 | 登録者数 | ポイント 転換交付数 | 活動事業件数 |
| | 平成30年度 7名 | 2,110 | 1件 |
| <ul style="list-style-type: none">●現在は配食サービス事業の担い手として活動されています。●地域の担い手を育成していく目的で始動した事業でしたが、地域住民への周知活動がまだ不十分で、登録者数が伸びていません。●今年度は地域でのニーズ調査を実施しました。 | | | |
| 事業課題 | <ul style="list-style-type: none">●今後活動者が住民に広がっていくと、事業内容によってはボランティアポイント制度とのすみ分け、活動者自身へ丁寧に説明しご理解いただく必要がでる場合が想定されます。●配食事業以外の登録者の活動の機会を広げるために、活動へのマッチング成功事例を増やす事が必要となります。●事業を拡げていく為に、協力者である登録数を増やしていく必要があります。 | | |

5-⑤. 配食サービス事業

| | | |
|------|--|----|
| 事業目的 | 高齢者の居宅に配食を行うことにより、食生活の改善、健康維持及び配達時の見守りによる孤独感の解消を図るとともに、自立した在宅生活を支援することを目的としています。 | |
| 事業実績 | 延べ利用人数（人） | |
| | 30年度 30年度 | 88 |

5-⑥. 軽度生活援助事業（ひとり暮らし高齢者に対する軽易な日常生活援助）

| | | | |
|------|--|----|---|
| 事業目的 | ひとり暮らし高齢者等に対して、軽易な日常生活上の援助を行うことにより、自立した生活を可能にするとともに、要介護状態への進行を防止することを目的としています。 | | |
| 事業実績 | 延べ利用人数（人） | | 援助内容（重複あり） |
| | 30年度 | 32 | 食材の確保（買い物）： 40件 掃除（片付け）： 件 草とり： 18件 |
| | 29年度 | 63 | 食材の確保（買い物）： 73件 掃除（片付け）： 25件 草とり： 27件 |

5-⑦. 災害ボランティアの育成

| | | |
|------|--|---------------|
| 事業目的 | 災害時、まず自分の周りの方を助けたり、避難所で活躍したりしていただけのボランティアを養成します。普段から防災・災害に対する意識を住民の皆様にも持っていただけることを目的としています。 | |
| 事業実績 | 参加人数 | |
| | 平成30年度 | 62名（内16名社協職員） |
| | 平成29年度 | 50名 |
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●自主防災組織のリーダーと防災ボランティアの育成を兼ねて開催する養成講座で、地域で実際活動している自主防災組織と民生委員、ボランティアが参加していましたが、今年度は社協職員も参加する講座にしたこと、それぞれの交流の場となりさらに効果がある講座になりました。 ●今回の講座では、要援護者の受入についてのワークショップを実施したことにより、避難所運営をしていくうえで配慮が必要なケースについて学んでいただく事が出来ました。 | |
| 事業課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●今回の講座も災害に対して参加者の意識を強める事にはつながっていますが、災害発生時のお互いの協力体制や、個人の災害時対応力の向上には至っていません。 ●継続的な災害・防災をテーマに数回の講座を開催していくことにより、地域の災害対応力を向上させていく必要があります。 | |

6. 介護者支援に関する事業

6-①. 家族介護者支援対策事業（低所得者紙おむつ券給付事業）

6-②. 寝たきり高齢者等紙おむつ券給付

6-③. 重度障がい者日常生活用品（紙おむつ券）給付

| | | | | |
|------|---|------|------------------------------|--------------------------------|
| 事業目的 | 在宅で生活している高齢者や障がい者で、常時紙おむつを必要とされている方の経済負担を軽減することを目的としています。 | | | |
| 事業実績 | | | 家族介護者支援 対策事業 (5,000 円) | 寝たきり高齢者等 紙おむつ券 (3,000 円) |
| | 延べ 配布枚数 (枚) | 30年度 | 175 | 74 |
| | | 29年度 | 185 | 66 |
| | | | | 125 |
| | | | | 131 |

6-④. 生活保護受給者食事料金援助事業

| | | |
|------|---|--|
| 事業目的 | 生活保護を受給されている方の中で、デイサービス等を利用されている方に介護保険サービス利用者負担の軽減を図ることを目的としています。 | |
| 事業実績 | 延べ助成人数（人） | |
| | 30年度 | |
| | 29年度 | |
| | 114 | |
| | 139 | |

6-⑤. 家族介護教室

| | |
|------|---|
| 事業目的 | 要介護被保険者を介護するものに対し、介護及び介護予防に関する知識及び技術の習得等を行うことで、要介護被保険者の能力の維持向上を図ることを目的としています。 |
| 事業実績 | 第1回：認知症講演会（講義） 「わかることが多いから混乱する ～まわりの理解が、本人、家族を救う」 株式会社 きらめき介護塾 代表取締役 渡辺哲弘 氏 参加者 56名 |
| | 第2回：自宅でできるリハビリテーションについて（講義+実践） 三重県理学療法士会 副会長 水野千 氏 参加者 41名 |
| | 第3回：訪問看護サービスについて（事例を交えた講話） 三重県立看護大学 長谷川智之 氏 参加者 37名 |

| | |
|------|---|
| | <p>第4回：介護サービスのしくみや対応について 明和町社会福祉協議会・平田峰子主任ケアマネージャー 参加者 31名</p> <p>第5回：介護サービス事業所見学ツアー (町内通所施設6ヶ所を見学) 参加者 15名</p> <p>第6回：介護サービス事業所見学ツアー (町内通所施設6ヶ所を見学) 参加者 20名</p> |
| 事業評価 | <p>第1回：いつきのみや地域交流センターを借りて講演を行いました。参加者も56名あり、一般的に皆さんがもっている認知症になつたら普通に付き合いは出来ないという固定観念を変える講話で、認知症になつても少し配慮があれば、出来る事わかる事があると、子供たちの短歌などを交え参加者も我がごとしてとらえやすいわかりやすい講演でした。</p> <p>第2回：今回は要介護者のリハビリも少し交えながら、介護者自身の体を整え介護者が元気で過ごせる日々の体操についても紹介いただき、参加者の自宅で続けられそうという感想が多数ありました。また明和町町制60周年を記念して朝のラジオ体操が斎宮小学校で開催される事や、講師が毎日ラジオ体操に取り組んでいる事などを話題にされ日々生活の中で体操を継続する大切さについても話されるなど共感が得られる内容でした。</p> <p>第3回：事例を交えて在宅医療・訪問看護の現状についての解説と、医療機関のフォローについて説明していただいたことで、参加者も要介護者が重篤な状態になった時でも在宅医療の心の負担が軽くなったという感想が聞かれました。また、平時から要介護者を介護していることを、さまざまな機関に伝えることで、災害時の緊急な支援につながることも知ることができました。</p> <p>第4回：介護保険の制度を受けるにあたり、参加者の気になる経済面、介護保険のサービスの種類について説明があり、沢山ある制度等について細かく説明していただいたので少し参考資料が多くなりましたが、医師の記事から介護者への精神的フォローについてのお話は、現場で介護者と接しているケアマネージャーならではと感じました。</p> <p>第5・6回：昨年参加者より好評をいただいた通所施設の見学ツアー参加者には、昨年度の参加者も多数いたことや、受け入れ側の許容人数等もあり参加者人数に制限をしてツアーを実施しました。昨年度と同じ見学先で11ヶ所の施設を見学しました。参加者は、施設によって色々な特徴や工夫をしている事に感心されていました。</p> |

| | |
|-------|---|
| 今後の課題 | ●新規参加者には、介護を実際している方が、要介護を伴って参加するケースが増えており、施設見学が体力的に難しい要介護者がいらっしゃいました。 |
| | ●参加者の中にはリピーターも多数おり、講義内容等を変更していく必要があると感じました。 |
| | ●実際介護を担っている方の参加が少ないため、参加しやすい開催や周知活動方法を考える必要があります。 |

7. くらしの相談・支援事業

7-①. 心配ごと相談事業

| 事業目的 | | 日常生活の困りごと、心配ごとなどの相談、助言を行います。 | | | | | | | | |
|------|-------------|------------------------------|----|----|---------|----|-----------|---------|-----|----|
| 事業実績 | | 開設回数（回） | | | 相談件数（件） | | | 来訪者数（人） | | |
| | 30年度 | 24 | | | 13 | | | 13 | | |
| | 29年度 | 24 | | | 8 | | | 10 | | |
| | 相談内容 (件) | 生活 | 離婚 | 家族 | 相続 | 金銭 | 土地・ 近隣 | 住宅 | その他 | 合計 |
| | 30年度 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 10 | 1 | 0 | 15 |
| | 29年度 | 1 | 0 | 2 | 4 | 1 | 3 | 0 | 0 | 11 |

7-②. 福祉なんでも相談（社協の総合相談）

| 事業目的 | | 「日ごろから気になっていること、心配していることがあるが、どこに相談すればよいのかわからない」など、福祉に関することは社協職員が窓口に『なんでも』ご相談をお聞きしています。 | | | | | |
|------|----------|--|--------------|--------------|-----------------|----|--|
| 事業実績 | 相談 方法 | 電話 | 来所 | 訪問 | その他 | 合計 | |
| | | 6 | 7 | 7 | 0 | 20 | |
| | 相談者 | 一般住民 | 民生委員 自治会長 | ボランティア 関係 | 行政 | 合計 | |
| | | 6 | 10 | 0 | 1 | 20 | |
| | | 福祉施設 職員 | 団体関係 | その他 | えんがわ教室 利用者から | | |
| | | 0 | 0 | 2 | 1 | | |

| | | | | | | |
|------------------------|----------------|--|---|--------------|-----------------|----|
| | | 地域生活 | 金銭トラブルに関する不安事（1件） 福祉資源について（1件） 住民トラブルについて（1件） 近隣住民の緊急時連絡と見守りについて（1件） 近所の見守りが必要であると思われる方について（1件） 移動手段、日中活動について（1件） 自治会について（6件） 講話依頼について（1件） | | | |
| 相談 内容 (重複 あり) | ボランティア | ボランティアの紹介・依頼について（2件） | | | | |
| | 団体活動 | 障がい者の会について（1件） 母子寡婦福祉会について（1件） | | | | |
| | 福祉サービス 利用 | 介護サービスの利用等について（2件） | | | | |
| | 社協事業利用 | 歳末見舞い品について（1件） | | | | |
| | 生活困窮者・ 貸付支援 | 貸付金について（1件） | | | | |
| | その他 | サービス利用者との関係について（1件） 顧客の滞納について（1件） | | | | |
| 29年度 事業実績 | 相談 方法 | 電話 | 来所 | 訪問 | その他 | 合計 |
| | | 11 | 10 | 0 | 5 | 26 |
| | 相談者 | 一般住民 | 民生委員 自治会長 | ボランティア 関係 | 行政 | 合計 |
| | | 5 | 12 | 0 | 0 | 26 |
| | | 福祉施設 職員 | 団体関係 | 教育 | えんがわ教室 利用者から | |
| | | 4 | 0 | 1 | 4 | |
| 事業評価 | | ●地域住民からの相談ごとを、社協職員として一人ひとりが窓口となり、福祉なんでも相談として対応したこと、さまざまな疑問や相談内容があることが改めて視覚化できました。 ●関係機関を紹介するだけではなく、関係機関に直接連絡を取り同行訪問を行ったり、支援会議へ参加したりするなど、意図的・継続的な関わり方をすることができました。 ●一方で相談件数は前年度より減少している為、今一度、社協職員一人ひとりが相談窓口であるという認識を留め置く必要があります。 | | | | |

| | |
|-------|---|
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●様々な相談内容に適切に対応できるようスキルアップを行い、相談支援事業の資質向上に努めています。 ●相談者は社協に何らかのかかわりのある方からの相談が多かったため、今後は積極的に地域へ出向く機会を作り、地域住民からの困りごとを直接キャッチできる仕組みづくりをしていく必要があります。 ●社協職員一人ひとりが担当業務の枠を超えて、地域住民のあらゆる疑問や不安に対する相談窓口であるという意識をもつ必要があります。 |
|-------|---|

7-③. 成年後見制度に関する事業

| | | | | | |
|-------------------------|---|----|------------|---------|---|
| 事業目的 | <p>認知症、知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が不十分な方々の権利を擁護することが、成年後見制度の目的です。</p> <p>当協議会では本制度の普及啓発とともに、法人が後見受任を行う体制づくりや、住民の後見活動や親族後見のサポートができる体制づくりに取り組んでまいります。</p> | | | | |
| 県内の市町 社会福祉協議会 の状況 | | | 法人後見を受けている | 受任体制がある | |
| | 市 | 町 | 市 | 町 | |
| 30年度 | | 11 | 2 | 12 | 3 |
| 29年度 | | 10 | 1 | 12 | 1 |
| 社協が行う 法人後見の メリット | <ul style="list-style-type: none"> ●県内の法人後見を実施している社協のうち、人口10万人都市では100%実施ですが、人口10万人以下の都市でも（社会資源が少ない地域での対応として）実施する社協が増加してきています。 ●社協受任ケースについて、首長申立が39.4%あり、申立全体の中での割合19.8%よりかなり多くなっています。（社会的孤立） ●社協が後見人となる方の69%が経済的困窮者となっています。（生活保護・非課税世帯） ●法人後見受任体制のある社協のほとんどが運営委員会を設置しており、後見業務の監督体制の整備による適切な後見業務を行えます。 ●他業務との兼務として担当職員を配置しているところがほとんどで、専任を置いている社協は2か所のみとなっています。13か所の社協が日常生活自立支援事業もしくは生活福祉資金等との兼任となっており、複合的な課題を抱えた方に対する有効な支援として期待されています。 | | | | |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●現在受任体制がある社協、法人後見受任体制の構築を計画している社協共通の課題は、職員の知識・スキル不足があります。今後、県域での職員研修の実施を要望する所が多くあります。 ●後見業務を受任する方のほとんどが経済的困窮者であることから、後見報酬のみでは事業運営は不可能となっており、財源の確保が大きな課題となっています。 | | | | |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ●ひとり暮らし世帯や、認知症高齢者等の増加が急速に進行することによる、後見希望者の増加が予想され、できる限り早い段階での体制整備を進めていくことが必要です。 ●後見希望者の増加が予想されるなか、今後親族後見の受任件数も増加していくことが予測される為（割合は減少傾向）、親族後見人のサポート体制を構築していくことが必要です。 ●今後も、法人後見担当職員の養成を主な目標にしつつ、後見制度の普及啓発・親族後見人の支援活動を進めていきます。 |
|--|---|

7-④. 日常生活自立支援事業（権利擁護）

| | | | | | |
|--------------|---|-----|-----|----|-----|
| 事業目的 | 判断力が十分ではない高齢者や障がい者に対し、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理を通じて、安心した生活を送れるよう支援することを目的としています。 | | | | |
| 30年度 事業実績 | 対応人数：18人 支援回数：平均15回/月 | | | | |
| | | 来所 | 電話 | 訪問 | 合計 |
| | 利用者 | 33 | 346 | 71 | 450 |
| | 関係機関 | 165 | 485 | 46 | 696 |
| 29年度 事業実績 | 対応人数：13人 支援回数：平均17回/月 | | | | |
| | | 来所 | 電話 | 訪問 | 合計 |
| | 利用者 | 48 | 319 | 20 | 387 |
| | 関係機関 | 133 | 237 | 20 | 390 |
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●民生児童委員3名、前民生児童委員4名の7名の支援員で対応しております。 ●障がい者生活支援センターをはじめとする関係機関との連携により相談件数は増加しています。又、平成31年度より全市町社協へ事業移管されることに伴い、相談件数は大幅に増加しており、今後さらにその傾向は加速していくことが想定されます。 ●上記に伴い、担当職員を1名増員し、細やかな対応が可能となる体制づくりに努めました。 ●中には就労をしている利用者もあり、夕方や夜間対応も行っております。 ●関係機関とのケース会議への参加も積極的に行いました。 | | | | |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●1人の生活支援員に対する負担が大きくなっているケースもあるため、生活支援員の発掘・確保に努め負担軽減に努めます。 ●31年度事業移管に伴い、支援の質の向上、財源確保に向けた整備が必要です。 | | | | |

7-⑤. 生活困窮者自立支援事業

| | | | | | |
|--------------|---|----|-----|----|-----|
| 事業目的 | 専門の支援員が相談者に寄り添いながら一人ひとりの状況に合わせた支援プランの作成や、他の専門機関と連携して、解決に向けた支援を行います。 | | | | |
| 事業実績 | 家計改善支援 4 件 | | | | |
| 30年度 事業実績 | 来所 | 電話 | 訪問 | 合計 | |
| | 利用者 | 29 | 68 | 23 | 120 |
| | 関係機関 | 28 | 147 | 14 | 189 |
| 29年度 事業実績 | 家計改善支援 2 件 | | | | |
| | 来所 | 電話 | 訪問 | 合計 | |
| | 利用者 | 32 | 26 | 20 | 78 |
| 事業評価 | 関係機関 | 55 | 78 | 13 | 146 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●三重県生活相談支援センター（県社協）と協働し、緊急措置後も生活困窮者への支援を行い、制度へのつなぎや就労、家計の見直し支援をおこないました。 ●家計改善支援事業を4件受けました。うち2件は家計改善支援を継続するなかで貯蓄額の増加、利用者自身で家計管理ができるようになってきています。 ●家計改善支援にとどまらず県社協と連携するなかで就労、年金申請、民生委員との連携など生活全般をとりまく支援に努めました。 ●家計改善支援にすぐには結びつかない状況ではありますが何らかの支援が必要と判断された対象者は三重県生活相談支援センター（県社協）から早期に情報提供を受け、同行訪問をおこなうなどし、地域での生活課題や状況把握に努めました。 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●困窮者の中には複数の問題を抱えている家庭が多く、児童、障がい、高齢分野など多職種・他機関との連携強化、協働が今後ますます求められます。 ●当事者が孤立することなく自立へとすすめるよう、継続的な支援、地域での支えあいや見守りができるしくみづくりに努めます。 ●家計管理は困窮者支援のなかでも重要な部分を占め、必要性の高い対象者はみられるものの、家計改善支援と結びつく件数は伸び悩んでいます。家計管理の必要性を理解してもらう、家計改善支援事業の広報・啓発にも努めていく必要があります。 | | | | |
| 今後の課題 | | | | | |

7-⑥. みえ福祉の「わ」創造事業

| | | |
|-------|--|--|
| 事業目的 | 現在、生活保護受給者ではないが生活保護に至る可能性のあるもので、経済的に困窮し最低限度の生活を維持することができなくなる恐れのある方に対し、緊急的に食料支援や物品等の支援、就労活動にかかる交通費の助成支援をおこない、自立・再建の支援を目指します。 | |
| 事業実績 | 30年度 | 食糧支援：2世帯（2回） 緊急支援：0件 就労支援：0件 |
| | 29年度 | 食糧支援：6世帯（7回） 緊急支援：1件（1回） 就労支援：0件 |
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●三重県生活相談支援センター（県社協）と協働しながら、その他関係機関との連絡・調整を図り困窮者支援に取り組みました。 ●緊急支援後も生活相談支援センターとの情報共有や依頼があった場合には同行訪問をする体制も整えてきました。 | |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●緊急的な支援にとどまるのではなく就労支援や家計改善支援など早い段階から積極的なかかわりを進め、生活の立て直しができる支援体制づくりが必要です。 ●困窮から抜け出すことができない方々の早期発見ができるよう、地域でのつながりづくりの強化、ネットワークづくりの構築が求められます。 ●複合的な課題を抱えた世帯が多いため、分野や機関を超えた連携が必要です。速や介入できる相談支援体制づくりを今後もすすめていきます。 | |

7-⑦. 生活福祉資金の貸付

| | | | | |
|--------------|---|-----------------|--------|----------|
| 事業目的 | 資金の貸付と必要な援助や指導を行うことにより、その経済的自立や生活意欲の助成促進、在宅福祉や社会参加の促進を図り、安定した生活を送れるよう支援します。 | | | |
| 30年度 事業実績 | 貸付実績 | 種類 | 貸付数(件) | 貸付額(円) |
| | | 福祉資金 福祉費 | 1件 | 76,000円 |
| | 相談実績 | 教育支援資金 就学支度費 | 1件 | 136,000円 |
| | | 来所 | 電話 | 訪問 |
| | 利用者 | 5 | 48 | 24 |
| | 関係機関 | 5 | 121 | 6 |
| 29年度 事業実績 | 貸付実績 | 一 | 0件 | 0円 |
| | 相談実績 | 来所 | 電話 | 訪問 |
| | 利用者 | 12 | 31 | 3 |
| | 関係機関 | 9 | 53 | 2 |
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●昨年度貸し付けに至ったケースは0件でしたが今年度は2件あがりました。貸し付けに至るまでの関わりのみならず、貸し付け後も途切れることない支援・見守りをすることで相談件数が伸びました。 ●相談は受けたものの要件に合わず貸し付けに至らなかったケースも多々ありました。他の方法はないか一緒に考え、関係機関に問い合わせをしたりつないだりなど、丁寧に対応しました。 | | | |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●償還が滞っているケースもあります。緊急小口資金などでは民生委員との連携が限られたことから地域での見守りや現状把握がしづらい状況が課題です。 ●本制度の利用者は単に貸し付けだけで解決できるケースではありません。自立支援機関との連携強化が求められていることからも、貸し付け段階から償還が終了するまで、孤立することのない継続的支援、経済状況の早期立て直しに取り組む必要があります。 | | | |

7-⑧. 地域福祉金庫の貸付

| | | | | | |
|------|--|--------|---------|---------|-------------|
| 事業目的 | 生活困窮者が生活を営む中で、不時の出費を必要とする場合に貸し付けることにより、円滑な社会生活をおくれるように支援します。 | | | | |
| 事業実績 | 前年度 未償還額 (円) | 貸付数(件) | 貸付額(円) | 償還額(円) | 未償還額 (円) |
| | 30 年度 198,000 | 13 | 263,000 | 203,000 | 258,000 |
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●貸付だけで終わらせるのではなく、関係機関と連携して継続的な自立に向けた支援に取り組んでいます。 ●今後も継続的支援のなかで利用者との信頼関係を強め、自立促進と未償還額の増加防止に努めます。 | | | | |

8. 福祉教育に関する事業

8-①. umouプロジェクト

| | | | | | | | |
|----------|---|-----------|--------------|-----------|-----------|--------------|-----|
| 事業目的 | 使用しなくなった羽毛製品を、貴重な資源として再生させるため、地域の人々が小学校の廃品回収時などに寄付し、小学生と「りんご」利用者が協力して回収作業を行うことで、地域住民も、小学生も、「りんご」利用者も、同じ地域で暮らす住民として、つながりを感じてもらえる一つの場となればという想いを持っています。また、回収された羽毛製品をエコランドが買取り、募金として赤い羽根共同募金へ募金、もちろんその募金は小学校へ配分し子供たちが自分たちの福祉活動に使っていたことでさらなる福祉教育の充実になります。さらに、羽毛製品の解体を「りんご」利用者が行うことにより、障がい者の就労支援にもつながっています。 | | | | | | |
| 事業実績 | 小学校分 | | 地域分 | | | 合計 | |
| | 1kg 以上 | 1kg 未満 | ダウンジ ヤケット | 1kg 以上 | 1kg 未満 | ダウンジ ヤケット | |
| 30 年度 | 27 | 6 | 30 | 25 | 15 | 25 | 128 |
| 29 年度 | 28 | 11 | 31 | 52 | 19 | 19 | 160 |

| | |
|-------|--|
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●各スーパーで、新聞、アルミ缶等の回収ボックスが出来たことで、小学校が実施する資源・廃品回収の回収物が減少して、回収の担い手として必要性が薄れています。 ●社会福祉協議会が各小学校の資源・廃品回収に参加する事は定着しましたが、ただの回収の担い手にとどまっており、umouプロジェクトへの理解が薄れています。 ●学校と関わりが定着し、福祉体験教室の開催件数増加に繋がっています。 ●回収枚数の減少は、地域回収の枚数の減少が大きな原因となっています。 |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●障がい者への理解を深めるという意味では、回収作業を住民と共にするという活動だけでは、理解まではつながらないため検討する必要があります。 ●地域の保護者の方々との関わりを密にするためには、資源・廃品回収を取り組む前の段階から協力する事も必要です。 ●回収枚数が減少しており、地域への回収事業の広報活動が必要です。 |

8-②. 福祉協力校の設置

| | |
|------|--|
| 事業目的 | <p>小・中学校の児童・生徒に地域住民との交流など、福祉体験活動や、ボランティア活動を進めることで、さまざまな人々と自然に交流できる態度や、地域福祉への関心を育みます。</p> |
| 事業実績 | <p>大淀小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者施設を訪問し、レクリエーション・合奏・合唱を披露、高齢者から手作り雑巾贈呈の交流活動 ・地域の高齢者と交流（運動会、学習発表会） ・「花いっぱい運動」実施、入学式・卒業式の式場を飾る ・海を守る活動（浜辺の集会にて海岸清掃） ・ユニバーサルデザインについて学ぶ ・アイマスク、白杖、車椅子体験実施 ・『見守り隊（学校支援ボランティア）に感謝の気持ちを伝える会』実施 ・学校だより、学年だよりで広報活動（浜辺の集会、ユニバーサルデザイン・アイマスク・白杖・車椅子体験、学習発表会、見守り隊に感謝の気持ちを伝える会） ・子ども会へumouプロジェクトの還元 <p>上御糸小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がいのある方を招き盲導犬について講演を実施し、障がい者への理解を深める。 ・学年・学校通信で活動紹介 ・「むらおこしかみみいと」の方々と祓川水生生物調査 ・特別支援学校に在籍する児童を迎えて交流学習を実施 ・地域の保育所を訪問し年長児と交流 ・地域の方々と交流（餅つき、昔の遊び） |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・環境美化活動（校舎周囲に花を植える） ・陶芸家を招き保護者と作品作りを実施 ・音楽活動者を招き音楽鑑賞と合同合奏で交流 ・国際交流指導員を招き国際理解を深めた ・保健委員会主体の車椅子体験とバリアフリーの学習を実施 |
| | <p>下御糸小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりと学級だよりにて諸活動紹介 ・祓川調査活動（水棲生物、環境保全） ・地域の幼稚園を訪問し園児との交流会を実施 ・地域の高齢者施設を訪問し、歌、合奏等披露し交流活動を実施 ・運動会、みいとフェスタ（すもう大会）へ地域の高齢者施設、その他地域の方々を招待 ・資源回収活動 ・納涼大会「親子のお店」 ・校舎花壇の整備、花を育て入学式・卒業式の式場を飾る ・大杉での自然体験 ・高齢者疑似体験、車椅子体験学習 ・防犯ボランティアの方への感謝活動 ・綿の栽培、綿くり・糸つむぎ体験 ・稲作体験 ・エコキャップ回収活動 ・u m o u プロジェクトへの協力 ・町内小学校との交流学習 |
| | <p>斎宮小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚に障がいのある方を招き盲導犬について講演 ・元国連カメラマンの方を招き「紛争地域の子供たちの学習や労働の現状」を学ぶ ・学級だよりの発行 ・特別支援学校児童との交流 ・地域の竹林整備ボランティアの方々と学習会 ・特別支援学級児童が明和の里へ「花の寄せ植え」寄贈 ・点字ボランティアグループの方々による点字の学習と点字しおり作りを実施 ・ペットボトルキャップを回収し、発展途上の子供たちにワクチンを届ける支援団体活動に協力 |
| | <p>明星小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校新聞での活動紹介 ・児童、学校主催による講演会・映画会・展示会の実施 ・校内美化活動（花を植え、入学式・卒業式の式場に飾る） ・米作りでお世話になった方々を招待し「ライスパーティー」を開催 ・特別支援学校の児童を迎え交流学習を実施 |

| | |
|------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルキャップを回収しポリオワクチン交換活動への寄付 ・里山保存を行っている方々と体験活動（タケノコ掘り、木の間伐、秘密基地作り、紫陽花の植樹） ・地域の方々と交流（昔の遊び、あられ煎り、羽釜でのご飯炊き） ・来入児童と1日入学時に交流 ・地域に住む視覚障がいの方を招き盲導犬について講演 |
| | <p>修正小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉施設を訪問し高齢者と交流活動を実施 ・地域の方に地域に伝わる祭りや昔のことについて学ぶ ・学級通信、学校だよりにて活動紹介 ・地域の方を講師に招きカローリングやグラウンドゴルフで交流、コサージュづくりを実施 ・地域の方々と大豆作り、豆腐作り体験 ・点字ボランティアグループの方々による点字学習を実施 ・お世話になったボランティアに感謝を伝える ・町内小学校との交流学習会を実施 ・エコキャップを回収し「世界のこどもにワクチンを」に協力 ・アルミ缶の回収 ・花を育て入学式、卒業式を飾る |
| | <p>明和中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協「ふれあいまつり」にボランティアとして参加 ・「ふれあいレクリエーション」にボランティアとして参加 ・花壇の整備、校舎の環境整備、植樹祭への参加 ・斎王まつりへの参加（海外への寄付活動） ・イオン明和店で赤い羽根共同募金、ボランティア基金の呼びかけ活動に参加 ・ありんこ、河田フェザー見学 ・文化祭でのボランティア活動壁新聞の掲示 |
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●地域の福祉施設への訪問や、地域の方々との積極的な交流を持つ活動をしていた だいています。 ●地域のボランティアの方々との交流を通じ、感謝の心を育む活動をしていただい ています。 ●農業体験をはじめ、様々な体験を通して日常ではなかなか体験出来ない活動を積 極的に取り入れ授業を行っていただいている。 ●地域の自然を活用した体験や、地域の祭りに参加することで郷土愛を育む活動に 力を入れていただいている。 ●世界の子供たちを支援する活動を通して社会貢献をしていただいている。 ●普段子供たちが接する機会が少ない方々を学校に招いて、子供たちの広い視野を 育てる活動にも取り組まれています。 |

8-③. 福祉体験教室

| | | | | |
|------|--|---------------|-----------------|------------------------|
| 事業目的 | <p>地域のボランティアグループや、障がいを持つ当事者の生の声を聞くことや、「体験」を通じて理解を深めていただくために、福祉体験教室を実施しています。</p> <p>相手の立場になって考えたり、共感したりすることのできる温かい心、ボランティアなどの社会貢献をしたいという心を大切にし、「ともに生きる力」を育むとともに、自立した個人が、互いにその存在を認め合い、関わりを大切にしながら生きていくという「地域共生社会」の考え方を大切にしています。また将来にわたって自分が住み慣れた地域の福祉に対する理解や関心を持ち、地域社会の中で一人の住民として成長することにより、自ら地域のネットワークづくりに積極的に関わろうとする意識を高めることを目的としています。</p> | | | |
| 事業実績 | <p style="text-align: center;">斜線</p> <p style="text-align: center;">30年度</p> <p style="text-align: center;">29年度</p> | 体験内容 | 小学校名 | 体験生徒数 |
| | | UD 高齢者疑似体験 | 大淀小学校 下御糸小学校 | 4年（19名） 4年（19名） |
| | | 車いす体験 | 明星小学校 | 4年（37名） |
| | | アイマスク体験 | 修正小学校 | 4年（10名） |
| | | 点字体験 | 斎宮小学校 修正小学校 | 4年松・竹組（69名） 4年（10名） |
| | | 車いす体験 | 明星小学校 | 4年A・B組（53名） |
| | | アイマスク体験 | 上御糸小学校 | 4年A・B組（52名） |
| | | 点字体験 | 斎宮小学校 | 4年松・竹組（64名） |
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none"> ● 29年度は3校から依頼がありましたが、30年度は5校で実施することができました。 ● 30年度は、車いす・アイマスク・点字体験のほか新たに、ユニバーサルデザイン（UD）・高齢者疑似体験を実施しました。 ● 車いす・アイマスク体験では、当事者である地域住民の方と一緒に出前授業を実施し、お互いに交流する機会と当事者の想いをその方の言葉から学ぶ機会をつくることができました。 ● 学校内の施設を活用し、子供たちが日頃から使用している器具や設備等を使ってバリアフリートラベルを 통하여いただきました。 ● 出前授業を通じて、学校や、子供たちと社協のつながりが持つことができました。 ● 長く活動して頂いている点字ボランティア団体の活躍の場と広報の場になり、会の活動の活性化につながりました。 ● 点字を打つ体験を通して、目の不自由な方と、子供たちのつながりが出来ました。 | | | |
| | | | | |

| | |
|--|---|
| | ●体験後の子どもたちの成長に合わせたつながりや、学校と継続したつながりが持てるよう工夫していくことが必要です。 |
|--|---|

8-④. ボランティア・サマースクール

| 事業目的 | 夏休み期間を利用して、小学生を対象にボランティア・サマースクールを実施しています。福祉施設等でボランティアを体験することで、思いやりの心を育むとともに、ボランティアを始めるきっかけづくりや、ふれあい、交流することにより、みんなが共に生きることを学ぶことを目的としています。 | | | |
|-------|--|------|-----|------------------------------|
| | 開催日数 | 参加人数 | 内 容 | |
| 事業実績 | 30年度 | 3日間 | 18名 | ありんこ利用者とおやつ作り えんがわ教室（4ヶ所） |
| | 29年度 | 3日間 | 15名 | 明和の里お仕事体験 伊勢防災センター見学ツアー |
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●日頃、小学生たちが利用することや、ふれあう事の少ない福祉の現場で、地域のお年寄りや、障がいの方々と接することで、小学生たちの視野を広げることができました。 ●他の地区（校区）の同世代の小学生たちとの交流の場としての機能もはたすことができました。 | | | |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●町内全部の小学校へ募集をかけましたが、参加いただく小学生が一部固定し、新規参加者が伸びていないため、PR方法や内容の工夫が必要です。 ●小学生たちが幅広い分野で地域の高齢者、障がい者と触れ合える機会を多く作り、自分たちが主体的に参加出来るような工夫が必要です。 | | | |

9. ボランティアセンター運営事業

| | |
|------|---|
| 事業目的 | 地域住民のボランティアに関する理解と関心を深めるとともに、個人ボランティアや団体ボランティアの育成及び活動の援助を行います。 |
| 事業実績 | <p>明和の里： 170名（50回）</p> <p>ひまわり会：防災食を活用した研修（1回）</p> <p>明和町点字サークル：点字指導（小学校・人権センター・社協祭り）（6回）</p> <p>おはなし小槌：大型紙芝居・絵本の読み聞かせ（ふるさと会館等）（20回）</p> <p>明和鈴の音会：広報めいわ録音（12ヶ月） 「こんにちはボランティアさん」ナレーション（全1回）</p> <p>コーラス斎王：コーラスによる幼稚園・保育園等訪問・祭りイベントへの参加（8回）</p> <p>業平夢太鼓：太鼓演奏 福祉施設訪問・イベント参加（14回）</p> <p>ドンド花2：踊りによる施設訪問（8回）</p> <p>防災ボランティア・プラス1：視察研修・防災訓練参加 防災講座開催（9回）</p> <p>琴の葉：大正琴演奏 福祉施設・サロン訪問（13回）</p> <p>ミミちゃん（傾聴ボランティア）：傾聴活動 福祉施設訪問（249名）</p> <p>おたがいさん：食事のつどい（4回） 生活支援・その他のボランティア（147回）</p> <p>Cherry：オカリナ演奏 福祉施設訪問（31回）</p> <p>横笛倶楽部：横笛演奏 福祉施設訪問（33回）</p> <p>明和マジッククラブ： 施設訪問、イベント参加（53回）</p> <p>ご近所カフェ寺ス： サロン開催（29回）</p> <p>アラピカケ： 明和の里・えんがわ教室（12回）</p> <p>ギターと篠笛を楽しむ会： えんがわ教室（6回）</p> <p>カントリーハウス： えんがわ教室（7回）</p> |

| | | |
|--|------|---|
| | | 明和の里：154名（30回） ありんこ：7名（3回） 明星新町ボランティア友の会：食事のつどい（2回） ひまわり会：視察研修、防災訓練参加（4回） 明和町点字サークル：点字指導（小学校・人権センター）（6回） おはなし小槌：大型紙芝居・絵本の読み聞かせ（ふるさと会館等） （20回） 明和鈴の音会：広報めいわ録音（12ヶ月） 「こんにちはボランティアさん」ナレーション （全2回） コーラス斎王：コーラスによる幼稚園・保育園等訪問（4回） 祭りイベントへの参加（6回） 業平夢太鼓：太鼓演奏 福祉施設訪問（8回） ドンド花2：踊りによる施設訪問（7回） 防災ボランティア・プラス1：視察研修・防災訓練参加 防災タウンウォッチング（5回） 琴の葉：大正琴演奏 福祉施設訪問（13回） ミミちゃん（傾聴ボランティア）：傾聴活動 福祉施設訪問（347名） おたがいさん：食事のつどい（4回） 生活支援ボランティア（49回） Cherry：オカリナ演奏 福祉施設訪問（33回） 横笛倶楽部：横笛演奏 福祉施設訪問（31回） 明和マジッククラブ 施設訪問、イベント参加（54回） |
| | 29年度 | |

10. 一般介護予防事業

10-①. えんがわ教室

| | | | | | | | |
|------|---|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----------------------------|
| 事業目的 | 65歳以上の高齢者が、要支援・要介護状態にならないように、必要に応じた介護予防のための事業利用を通じ、その居宅および地域において自立した活動的で生きがいのある日常生活を営むことができるよう支援します。 | | | | | | |
| 事業実績 | 延べ人数 (実人数) | 30年度 (24日) | 大淀 ① | 大淀 ② | 上御糸 下御糸 | | 合計人数 3,107 (161) |
| | | | 533 (23) | 538 (28) | 282 (16) | | |
| | | | いつき | 勝 見 | 明星 ① | 明星 ② | |
| | | | 451 (28) | 474 (25) | 493 (25) | 336 (16) | |
| | (開催 日数) | 29年度 (24日) | 大淀 ① | 大淀 ② | 上御糸 下御糸 | | 2,859 (171) |
| | | | 365 (23) | 510 (28) | 258 (15) | | |
| | | | いつき | 勝 見 | 明星 ① | 明星 ② | |
| | | | 491 (31) | 521 (30) | 458 (27) | 256 (17) | |
| | 年齢 (歳) | | 65～74 | 75～79 | 80～84 | 85以上 | 合計人数 161 |
| | | 30年度 | 14 | 52 | 57 | 38 | 161 |
| | | 29年度 | 14 | 56 | 57 | 44 | 171 |
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●新規利用申込者のほとんどが、現在利用されている方からの勧誘によるものでした。また広報誌へ掲載した案内を見て申し込みをされた方もいました。 ●ご家族の希望で介護保険事業所へ移行され、利用中止となった方もいました。 ●口腔衛生指導では、歯磨きの仕方や口の中の細菌測定、唾液の必要性などを学びました。 ●栄養指導では、食中毒予防や高齢者の栄養、オープントースターを使った簡単出来るパン・ピザ作りを行い大変好評でした。 ●脳トレの時間では、簡単な計算・数字盤などを行いました。特に数字盤は利用者に | | | | | | |

| | |
|-------|---|
| | <p>好評で積極的に取り組まれていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域のボランティアの方々が、講師として利用者に直接教えたり、趣味を披露したりするなどの協力をしていただけたことで、楽しく教室を進めることができました。 |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●参加者の機能向上、意欲向上が期待できるような内容のプログラムを作っていくします。また、マンネリ化せず楽しみながら介護予防につながるプログラムとなるよう工夫が必要です。 ●会場によって参加者の年齢に幅があるため、それぞれの参加者にあった内容のプログラムを、会場ごとに作っていく必要があります。 ●参加者のほとんどは女性で、男性は1割にも満たない状況です。もっと男性にも参加していただけるよう、魅力のあるプログラムの工夫や広報を考えていきます。 |

10-②. 筋力脳力あっぷ教室

| 事業目的 | 65歳以上の方を対象とした理学療法士による筋力運動や指導員による脳トレーニングに特化した教室です。早期の段階から身体機能、認知機能の向上、人との交流、に取り組むことで、できる限り自宅で自立した日常生活が続けられることを目的としています。 | | | | | | | | | | | |
|---|--|--------------|----------------|----------------|----------------|--------|--|--|--|--|--|--|
| | 開催日数 | 延べ人数（実人数） | | | | サポーター数 | | | | | | |
| 事業実績 | | 男性 | 女性 | 合計 | | | | | | | | |
| 30年度 | 136日 | 938 (185) | 2,007 (396) | 2,945 (581) | 376 (107) | | | | | | | |
| 事業評価 | 29年度 | 47日 | 338 | 799 | 1,137 (197) | 258 | | | | | | |
| | 利用者数の増加のため、今年度から教室回数を週3回（火・木・金）に増やし、木曜コースをおとなチャレンジ教室卒業生枠として設定・開催しました。 | | | | | | | | | | | |
| <p>【筋力あっぷ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●体力測定「立ち座りテスト」では火・金コース（H29年度）15回から（H30年度）26回、木コース12回から20回へと向上しています。 | | | | | | | | | | | | |
| <p>【脳力あっぷ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アンケート結果によると週2～3回運動をしているという参加者が最も多く、「教室に参加するようになり意欲がでた」「体が動きやすくなった」という好評をいただきました。一方、「内容が同じなので変化をつけてほしい。」といった意見もでていたので今後改善を図っていきたいと思います。 | | | | | | | | | | | | |
| <p>【脳トレ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●脳トレ（計算、数字盤・音読）に加え、間違い探しやクロスワードなどの脳トレーブリントを毎回実施したほか、笑いヨガや歌など脳トレを兼ねたレクリエーションを行いました。 | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-------|--|
| | <p>実施しました。今年は看護師による講話も2回ほど取り入れ、健康への意識づくりにも取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●回答率測定では、教室参加前後で木コースは全ての項目で上昇しており、上昇率が高まりました。火・金コースでは記憶力や語想起力での上昇がみられましたが上昇率は少し低下した結果となりました。 ●教室参加をきっかけに「新聞に掲載されているクイズをするようになった。」「ナンバープレートをみると計算するようになった。」など、日頃の生活にも脳トレを意識される参加者が増えたことがアンケート結果でわかりました。 |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●新規参加者の受け入れ枠がないという課題を解決するため、次年度から全員が週1回の利用に統一されます。交流の機会が減少しないよう、地域資源の把握とマッチング、新たな活動の場の創出が課題です。 ●アンケート結果から自主グループを作つてみたいという声もあがっています。今後はそのような声をキャッチし、グループ結成から継続的な活動が地区で広がっていくことができるよう、後方支援にも取り組みたいと思います。 ●利用者の申し込みが停滞しています。本教室の周知を図り、新規利用者の発掘に努め介護予防に取り組みます。 |

11. 介護予防・生活支援サービス事業

11-①. 通所型サービスC（おとなチャレンジ教室）

| 事業目的 | 生活機能を改善するための運動器の機能向上や栄養改善、口腔指導、認知機能等のプログラムを実施します。 | | | | | |
|------|--|------|-------------|-------------|--------------|--------------|
| 事業実績 | | 開催日数 | 延べ人数(実人数) | | | |
| | | | 男性 | 女性 | 合計 | サポーター数 |
| | 30年度 | 40日 | 273 (89) | 228 (72) | 503 (158) | 290 (105) |
| | 29年度 | 22日 | 119 (6) | 189 (10) | 308 (16) | 68 - |
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none"> ●おとなチャレンジ教室卒業後の進路について、1・2クールを含む31名の参加者のうちおとなチャレンジ教室継続が13名、筋力脳力あっぷ教室への移行8名、デイサービスへの移行6名、自宅療養2名、転居2名という結果になりました。 ●認知症でサービス拒否利用者が参加しましたが本教室に参加することで親しい友達ができ、更に認知症カフェにつなげたことで介護者同士のつながりも深まり家族同士の付き合いまで広げることができたケースもありました。 | | | | | |

| | |
|-------|--|
| | <p>【運動面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●必要に応じて個別指導、助言を実施しました。 ●体力測定の結果、「体脂肪」「筋肉量」「座位体前屈」「5m歩行速度」において上昇率が目立ちました。基礎体力の向上、柔軟度、歩行能力の改善がみられます。一方、筋力においては低下傾向にありました。 <p>【口腔面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●毎回30分相談コーナーを設け個別相談・助言をおこない、口腔の状態をチェックしました。 ●受講後の口腔に対する意識向上がセルフチェックの結果に現れました。歯磨き習慣のなかった利用者が毎日歯磨きをするように意識の変化がみられたケースもありました。 <p>【栄養面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●毎回30分相談コーナーを設け個別相談・助言をおこないました。介護者への調理指導をおこなうため訪問指導したケースも1名ありました。 ●簡単に栄養バランスのよい食事が作れるよう、簡単レシピを9回提供しました。60%の方が実際に活用しました。 |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●教室でおこなった個別指導が自宅で十分に活かされていないため、次年度は自宅訪問指導を実施し、介護者への指導や自宅環境への助言など日常生活に活かせる支援を目指します。 ●アンケート結果によると「自宅でも運動をしている。」が多い反面、脳トレは「全くしていない。」という回答がトップでした。自宅でも脳トレに取り組んでもらえるよう、改善を図ります。 |

12. 地域生活支援事業（障害者総合支援法）

12-①. 手話奉仕員養成研修事業

| | | | |
|-------|---|--|--|
| 事業目的 | 手話を第二言語として自然な形で習得できる指導方法（直接教授法「ナチュラル・アプローチ」）を用いて奉仕員を養成し、聴覚障がい者などへの理解を深めるとともに、明和手話サークルと協働し、聴覚障がい者の社会参加を援助する人材の育成を目的としています。 | | |
| 事業実績 | 30年度 | 入門過程 開講日数：全23回 名簿登録人数：10名 8割以上の講座受講者：5名（基礎課程移行者：8名） | |
| | 29年度 | 基礎過程 開講日数：全30回 名簿登録人数：16名 8割以上の講座受講者：13名 | |
| 事業評価 | <ul style="list-style-type: none">●新しく受講者を募集し、第2期目の講座を行いました。●受講者が10名と一昨年に比べ少なかったですが、講師と1対1で学習することができ、内容の濃い講座を実施することが出来ました。●受講者の習得度に合わせて復習時間をとっていただくことで、記憶を定着させることができました。●発語禁止のルールを設け音のない空間でコミュニケーションすることで、受講者が集中して講座に臨めるよう工夫されていました。●講義では、「聴覚障がい者の日常生活」「聴覚障がいの基礎知識」を、聴覚障がい者から直接学ぶ機会を得られ貴重な体験となりました。 | | |
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none">●前期と比較すると、今期の受講者が10名と少なかったです。2年間の通しての講座となるため、令和2（2020）年度からの新規受講者の募集方法を検討していくかなければなりません。●本講座終了後のステップアップ講座が明和町内になく、他市まで行かなければならぬいため、継続学習する機会を身近に作ることが困難な状況です。 | | |

II. 平成30年度各事業利用実績

1. 居宅介護支援事業プラン作成実績

(実人數：人)

| 提供月 | 要支援 1 | | 要支援 2 | | 事業 対象者 ケアマ ネジメ ントA | 予防+A合計 | 居宅介護支援 | | | | 介護 合計 | 総合計 |
|------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------------|--------|--------|-------|-------|-------|----------|-------|
| | 予防 ケアマ ネジメ ントA | 要防 ケアマ ネジメ ントA | 予防 ケアマ ネジメ ントA | 要防 ケアマ ネジメ ントA | | | 要介護 1 | 要介護 2 | 要介護 3 | 要介護 4 | | |
| 4月 | 1 | 12 | 2 | 18 | 1 | 34 | 62 | 43 | 23 | 12 | 18 | 158 |
| 5月 | 1 | 12 | 5 | 18 | 10 | 46 | 65 | 45 | 26 | 12 | 18 | 166 |
| 6月 | 1 | 10 | 5 | 23 | 10 | 49 | 64 | 44 | 25 | 15 | 16 | 164 |
| 7月 | 1 | 12 | 5 | 19 | 9 | 46 | 64 | 46 | 27 | 15 | 16 | 168 |
| 8月 | 1 | 12 | 5 | 18 | 9 | 45 | 63 | 47 | 28 | 14 | 14 | 166 |
| 9月 | 1 | 13 | 4 | 18 | 8 | 44 | 57 | 48 | 26 | 15 | 14 | 160 |
| 10月 | 1 | 14 | 9 | 19 | 9 | 52 | 59 | 47 | 25 | 16 | 14 | 161 |
| 11月 | 1 | 14 | 9 | 18 | 9 | 51 | 60 | 44 | 24 | 16 | 13 | 157 |
| 12月 | 2 | 16 | 9 | 18 | 9 | 54 | 62 | 48 | 25 | 22 | 12 | 169 |
| 1月 | 2 | 16 | 9 | 20 | 9 | 56 | 62 | 50 | 29 | 20 | 12 | 173 |
| 2月 | 0 | 15 | 9 | 21 | 9 | 54 | 59 | 49 | 27 | 19 | 11 | 165 |
| 3月 | 0 | 15 | 9 | 21 | 9 | 54 | 59 | 51 | 28 | 18 | 10 | 166 |
| 合計 | 12 | 161 | 80 | 231 | 101 | 585 | 736 | 562 | 313 | 194 | 168 | 1,973 |
| 29年度 | 21 | 28 | 226 | 98 | 94 | 467 | 759 | 503 | 298 | 211 | 128 | 1,899 |
| | | | | | | | | | | | | 2,558 |
| | | | | | | | | | | | | 2,366 |

2. 高齢者通所介護事業利用実績

(延人數：人)

| 提供月 | 稼動日数 | 総合事業 | | 介護サービス | | | | 合計 |
|------|------|------|------|--------|-------|-------|------|-------|
| | | 要支援1 | 要支援2 | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | |
| 4月 | 21 | 0 | 67 | 228 | 255 | 153 | 41 | 49 |
| 5月 | 23 | 0 | 83 | 222 | 264 | 157 | 58 | 56 |
| 6月 | 21 | 0 | 66 | 201 | 241 | 127 | 68 | 50 |
| 7月 | 22 | 0 | 68 | 213 | 242 | 154 | 50 | 753 |
| 8月 | 23 | 0 | 69 | 208 | 229 | 157 | 47 | 774 |
| 9月 | 20 | 0 | 61 | 173 | 201 | 110 | 30 | 759 |
| 10月 | 23 | 0 | 64 | 200 | 245 | 112 | 38 | 614 |
| 11月 | 22 | 0 | 65 | 211 | 221 | 100 | 41 | 692 |
| 12月 | 20 | 0 | 51 | 189 | 215 | 90 | 32 | 613 |
| 1月 | 20 | 0 | 50 | 184 | 215 | 92 | 32 | 610 |
| 2月 | 20 | 0 | 46 | 178 | 190 | 88 | 31 | 569 |
| 3月 | 21 | 0 | 46 | 198 | 210 | 109 | 33 | 631 |
| 合計 | 256 | 0 | 736 | 2,405 | 2,728 | 1,449 | 501 | 530 |
| 29年度 | 257 | 30 | 694 | 3,117 | 2,459 | 1,842 | 743 | 443 |
| | | | | | | | | 8,349 |
| | | | | | | | | 9,328 |

3. 障がい者福祉サービス事業（ありんこ）利用実績

(延人数:人)

| 提供月 | 稼働日数 | 生活介護 | 就労継続支援B型 | 合 計 |
|------|------|-------|----------|--------|
| 4月 | 21 | 551 | 499 | 1,050 |
| 5月 | 23 | 588 | 539 | 1,127 |
| 6月 | 21 | 551 | 494 | 1,045 |
| 7月 | 22 | 553 | 523 | 1,076 |
| 8月 | 23 | 552 | 527 | 1,079 |
| 9月 | 20 | 458 | 454 | 912 |
| 10月 | 23 | 565 | 536 | 1,101 |
| 11月 | 22 | 545 | 542 | 1,087 |
| 12月 | 20 | 497 | 497 | 994 |
| 1月 | 20 | 481 | 486 | 967 |
| 2月 | 20 | 497 | 507 | 1,004 |
| 3月 | 21 | 532 | 540 | 1,072 |
| 合 計 | 256 | 6,370 | 6,144 | 12,514 |
| 29年度 | 257 | 6,757 | 5,492 | 12,249 |

4. 地域活動支援センター事業利用実績

・日中一時支援事業
(延人数:人)

| 提供月 | 障がい者 | 障がい児 | 合 計 |
|------|------|------|-----|
| 4月 | 0 | 6 | 6 |
| 5月 | 0 | 8 | 8 |
| 6月 | 0 | 7 | 7 |
| 7月 | 0 | 9 | 9 |
| 8月 | 0 | 6 | 6 |
| 9月 | 0 | 8 | 8 |
| 10月 | 0 | 8 | 8 |
| 11月 | 0 | 9 | 9 |
| 12月 | 0 | 8 | 8 |
| 1月 | 0 | 8 | 8 |
| 2月 | 0 | 8 | 8 |
| 3月 | 0 | 7 | 7 |
| 合 計 | 0 | 92 | 92 |
| 29年度 | 0 | 94 | 94 |

5. 指定特定相談支援事業所サービス等利用実績

(実人数:人)

| 提供月 | 特定相談支援 | | 障害児相談支援 | | 合計 |
|------|--------|------|---------|------|-----|
| | 利用支援 | 継続支援 | 利用支援 | 継続支援 | |
| 4月 | 12 | 22 | 8 | 9 | 51 |
| 5月 | 14 | 15 | 5 | 7 | 41 |
| 6月 | 19 | 18 | 4 | 9 | 50 |
| 7月 | 19 | 18 | 14 | 5 | 56 |
| 8月 | 13 | 25 | 7 | 7 | 52 |
| 9月 | 15 | 23 | 3 | 6 | 47 |
| 10月 | 19 | 18 | 13 | 7 | 57 |
| 11月 | 9 | 24 | 6 | 13 | 52 |
| 12月 | 10 | 21 | 12 | 6 | 49 |
| 1月 | 9 | 19 | 4 | 4 | 36 |
| 2月 | 10 | 24 | 4 | 8 | 46 |
| 3月 | 11 | 26 | 11 | 3 | 51 |
| 合計 | 160 | 253 | 91 | 84 | 588 |
| 29年度 | 174 | 241 | 67 | 71 | 553 |